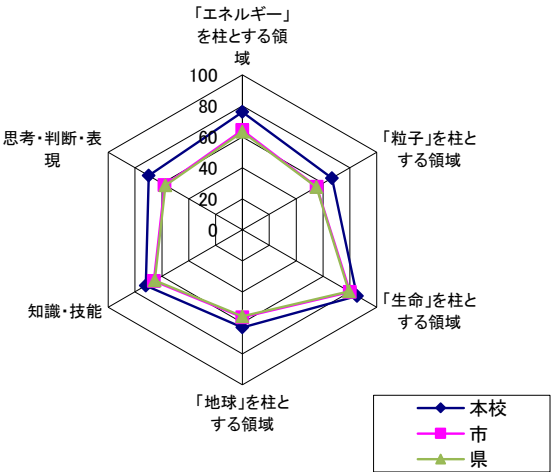


宇都宮市立東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	76.0	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	66.8	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	85.3	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	63.0	56.4	55.8
観点	知識・技能	72.0	66.0	65.3
	思考・判断・表現	69.9	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は76.0%であり、県の平均を12.8ポイント上回っている。 ○乾電池のつなぎ方の名称を答える問題では、正答率が88.0%であり、県の平均を20.7ポイント上回っている。 ○回路の乾電池の向きを入れ替えた際の、簡易検流計の針の触れ方を示した図を選ぶ問題では、正答率が76.0%であり、県の平均を12.9ポイント上回っている。	・乾電池の数やつなぎ方を変えたときのモーターの動作について簡易検流計で調べる際、考えたことを回路図などを用いて表現させたり、「電流」「直列つなぎ」「並列つなぎ」という言葉を使って説明させたりする活動を取り入れることで、電流の大きさや向きによるモーターの回り方、検流計の針のふれ方の違いを理解できるよう指導を工夫していく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は66.8%であり、県の平均を11.7ポイント上回っている。 ○温められた空気の動き方を答える問題では、正答率が72.0%であり、県の平均を33.4ポイント上回っている。 ●1つのピストンに水と空気を閉じ込めて圧す実験の実験の結果を示した図を選ぶ問題では、正答率が56.0%であり、県の平均と同程度である。	・温度によるものの体積変化を利用したものづくりの例や、生活の中の具体物を紹介するなど、各単元において、日常生活と学習内容のつながりを意識させながら理科の有用性を実感できる授業を実践していく。 ・実験を行う際に、結果がどうなるかを予想してから実験をしたり、実験結果を考察し、自分の言葉でまとめたりするなど、常に意識して指導することにより、科学的な見方や考え方、思考力や表現力を高められるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は85.3%であり、県の平均を6ポイント上回っている。 ○人の手や腕の骨と鳥の翼の骨について、骨の数に着目して差異を答える問題では、正答率が92.0%であり、県の平均を11.0ポイント上回っている。 ●ヘチマの成長記録が春夏秋冬の順に並んでいるものを選ぶ問題では、正答率が84.0%であり、県の平均を4.1ポイント下回っている。	・腕を動かしたときの筋肉の様子や、ヒト以外の動物の体のつくりや動く仕組みなど、実験や観察が難しい内容については、模型や図書資料、映像資料などの視聴覚教材を積極的に活用し、理解が深まるようにする。 ・「季節と生物」については、年間の動植物の変化が分かるように、ICT機器を活用しながら観察記録をまとめるなど工夫する。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は63.0%であり、県の平均を7.2ポイント上回っている。 ○雨の日の気温を示したグラフを選び、1日の気温の変化に着目して選んだ理由を答える問題では、正答率が76.0%であり、県の平均を12.1ポイント上回っている。 ●1回目の観察から2時間後に月が見える位置を示した図として適切なものを選ぶ問題では、正答率が60.0%であり、県の平均を9.7ポイント下回っている。	・温度計の正しい読み取り方を指導し、正確に気温を測ることや、折れ線グラフの表し方と読み方を押さえるなど、一日の気温の変化と天気を正確に記録できるようにする。 ・月の観察など、学校での実験や観察が難しい内容については、模型や図書資料、映像資料などの視聴覚教材を積極的に活用し、理解が深まるようにする。